

課題 8 . 愛知県予防接種センター

活動項目	活動項目別の実績(概要)
実施活動	1. 接種要注意者、海外渡航者等に対する予防接種の実施 予防接種実施件数 823件 契約市町村数 17市町 2. 保健医療相談及び情報提供 相談件数 807件 3. 予防接種研修会の開催 1回 4. 予防接種センター調査検討委員会の開催 調査検討委員会1回、研究部会2回 5. 調査研究 (1)「予防接種アクシデントに関する調査について」 (2)「麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査について」平成16年2月実施
教育・研修	予防接種研修会 平成15年9月9日(火) 講演「麻疹ウイルスと麻疹流行予防対策」 シンポジウム「地域における麻疹感染予防対策」
保健・医療相談	1. 相談内容は、「接種時期・方法」に関する相談が最も多く7割を占めた。 2. 相談者は本人・家族が多く、相談内容の多くは「基礎疾患と予防接種」次いで「接種スケジュール」で6割以上を占めていた。
情報サービス	ホームページに掲載 「予防接種センターのご案内」
調査・研究	1. 「予防接種アクシデントに関する調査について」 子どもの予防接種に関する接種過誤や事故の実態把握のため行政機関への報告または相談内容や、地域における報告・相談体制等の状況を把握するため。 2. 「麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査について」平成16年2月実施 現在集計中。
学術活動	1. 「予防接種に関する相談の分析からみた現状と問題点」 中澤和美 2003.5.11 第223回日本小児科学会東海地方会 (岐阜市) 2. 「麻疹ワクチン未接種者の分析」 中澤和美 2003.7.19 第49回東海公衆衛生学会学術大会 (浜松市) 3. 「基礎疾患児に対する麻疹ワクチン接種の現状と問題点」 山崎嘉久 2003.8.3 第224回日本小児科学会東海地方会 (津市) 4. 「基礎疾患児に対する麻疹ワクチン接種の実状と問題点」 中澤和美 2003.11.15 第50回日本小児保健学会 (鹿児島市) 5. 「予防接種に関する相談の分析からみた現状と問題点」 中澤和美 2004.1.24 平成15年度愛知県公衆衛生研究会 (東浦町)

実施活動項目ごとの評価：愛知県予防接種センター

<p>評価の方法・手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談内容の分析 ・ 接種要注意者等への予防接種実施件数と内容の調査 ・ 研修参加者へのアンケート集計 ・ 県下市町村との予防接種委託契約件数
<p>評価の概要</p>	<p>1. 有用性</p> <p>(1) 相談内容では「接種時期・方法」が72.0%と最も多く、次に「海外渡航」14.1%であった。「接種時期・方法」の中では「基礎疾患と予防接種」「接種スケジュール」が多く、相談者は家族がその多くを占めていた。このことは、契約市町村からの依頼で実施している要注意者への予防接種の実施や相談に対応しているといえる。また、「接種スケジュール」の相談が多いのは、市町村が当センターを予防接種センターとして活用している表れではないかと予想され、平成14年度と同様の結果であった。</p> <p>(2) 予防接種実施件数は705件であったが、その内訳、接種要注意者等への予防接種の実施とその他海外渡航等の予防接種実施件数が分類できないため、これによる評価は難しい。ただ、(1)の相談内容の分析では、家族からの相談で「基礎疾患と予防接種」が多かったこと、また、契約市町村が17市町村に増え、当予防接種センターの存在が認識されつつあると思われた。</p> <p>2. 問題点</p> <p>相談内容の分析から、相談者は本人・家族が圧倒的に多く、海外渡航の相談を除けば市町村が実施している定期予防接種に関する相談である。このことから当予防接種センターの設置目的でもある相談体制の充実のため、市町村等との情報の共有が必要だと思われる。</p> <p>3. 事業継続に関する意見</p> <p>県の予防接種センターとしての位置付けであり、予防接種に関する相談のニーズもある。また、契約市町村も増え市町村からの期待にも応えられるようさらに充実していく。</p>

予防接種実施状況

	H15.4月	5月	6月	7月	8月	9月
三種混合	3	6	2	4	9	5
二種混合	11	1	0	5	4	1
破傷風	1	0	1	3	4	3
日本脳炎	11	1	2	8	9	3
ポリオ	8	10	8	5	2	3
麻疹	4	6	5	7	9	5
風疹	2	4	1	4	0	6
ムンプス	2	3	4	1	0	2
水痘	2	5	3	1	2	1
ツベルクリン	0	3	0	1	0	1
BCG	0	2	0	1	0	1
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0
B型肝炎	3	0	7	9	5	0
A型肝炎	3	1	0	4	7	0
ジフテリアトキソイド	0	0	0	0	0	0
狂犬病	6	0	0	2	1	0
肺炎球菌	0	0	0	0	0	0
計	56	42	33	55	52	31

	10月	11月	12月	H16.1月	H16.2月	H16.3月	計
三種混合	3	1	5	6	6	7	57
二種混合	0	1	0	3	1	0	27
破傷風	0	0	1	4	8	3	28
日本脳炎	1	0	2	10	6	6	59
ポリオ	1	0	3	4	1	2	47
麻疹	6	6	5	9	5	3	70
風疹	2	1	0	4	1	5	30
ムンプス	1	1	1	1	4	2	22
水痘	4	9	2	4	6	4	43
ツベルクリン	0	0	0	3	3	2	13
BCG	0	0	0	3	3	1	11
インフルエンザ	17	117	150	21	2	0	307
B型肝炎	0	0	0	7	7	6	44
A型肝炎	0	0	2	7	11	4	39
ジフテリアトキソイド	0	0	0	0	0	0	0
狂犬病	0	0	2	6	6	3	26
肺炎球菌	0	0	0	0	0	0	0
計	35	136	173	92	70	48	823

研修会実績と評価(1) 予防接種研修会

実施日時	平成15年9月9日(火)午後1時30分から4時20分まで	
参加者数	(医療機関)医師・看護師(保健機関)保健師、看護師、薬剤師、事務担当県及び名古屋市予防接種関係主管課 計64名	
講演会	講師	国立三重病院 副院長 庵原俊昭
	講演主題	麻疹ウイルスと麻疹流行予防対策
	講演内容の要旨	<p>1 麻疹とは 感染症対策・感染経路、感染力、潜伏期間、症状、合併症、死亡率等</p> <p>2 麻疹ワクチンについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然麻疹の症状と麻疹ワクチンの副反応・ワクチン接種率と成人水痘の発症 ・ 麻疹移行抗体と1歳未満児の麻疹抗体・麻疹流行をコントロールするため ・ 麻疹ワクチン接種率を下げている要因(医学的要因、社会的要因) <p>3 麻疹ワクチン接種率向上に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 麻疹ワクチン接種率の算出式・麻疹流行時の対策・流行時麻疹ワクチン接種方法 ・ ワクチン予防可能疾患流行時の対策・世界各地の麻疹ワクチン接種方法 <p>4 予防接種スケジュールで困ったとき(原則)</p>
	主 題	地域における麻疹感染予防対策
シンポジウム	座 長	あいち小児保健医療総合センター 総合診療部長兼保健室長 山崎嘉久
	助言者	国立療養所三重病院 副院長 庵原俊昭
	1「地域における麻疹ワクチン接種の実態 一般小児科を受診した保護者に対するアンケートから」	<p>あいち小児保健医療総合センター32病棟 看護師 虫賀智子</p> <p>麻疹に関する保護者の認識傾向から、麻疹の症状、感染経路、合併症、近年の流行状況に関して、認識が高い傾向にあるものと、反対に認識が低い傾向にあるものがあることができた。看護の役割として、小児科領域に関わる看護職が、麻疹に関する情報を取り入れることが必要であり、十分な知識の基盤を元に保護者へのアドバイスが可能となる。</p>
2「地域における麻疹ワクチン接種の実態 1歳6か月児・3歳児健診を受診した保護者に対するアンケートから」	<p>あいち小児保健医療総合センター保健室 保健師 中澤和美</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎疾患児の麻疹ワクチン接種状況は基礎疾患を有さない児に比較して接種割合が低く、接種時期も遅かった。 ・ 基礎疾患児への当面の対策として、基礎疾患児への接種体制の強化や情報共有とともに、「接種日に都合がつかない」保護者への動機づけの強化が必要である。 ・ 平成13年と比べ平成14年では1歳から1歳半児の麻疹ワクチン接種者比率の増加を認めた。 ・ 今後の対策として、地域の麻疹撲滅及び基礎疾患児への感染防止のためには、二回接種も視野に入れたワクチン接種時期の早期化が望まれる。 	
3「麻疹予防接種に関する名古屋市港保健所の取り組み」	<p>名古屋市港保健所 保健予防課長 小田内里利</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園への通園と接種の有無との関係で、保育園通園している児の接種ありの割合が低い。保育園を通じ、園児・入園予定者の保護者に対し、未接種者は早めに予防接種を済ませよう勧奨する。 ・ 保育園児の保護者の意識調査から、接種した理由は「医療機関に行きやすいから」という理由が高く、保健所などの指導があったとの理由は低かった。未接種の理由では「忙しいから」が高かった。麻疹の予防接種の実施を促すよう保健所の指導を強化するため、1歳6か月児健診時に未接種者へリーフレットを使用して接種勧奨する。 	

主な質問と回答

Q1：ポリオの接種計画について、春2ヶ月秋2ヶ月の4ヶ月間の間に計画するように県からされている、通年はできないと。県内・国内で季節限定でやってないところはあるのか？

A1：アメリカ・ヨーロッパ・アフリカでも年中やっている、なぜできないのか。集団でやらないと野生株が増えてしまうからというが、季節限定したほうがリスクが増える。うち(国立三重病院)では年中やっている。

* 愛知県内の他市町村の状況を県健康対策課から情報をもらい回答する。

Q2：麻疹と風疹を同一日に両腕に接種することについて

A2：定期接種では、副作用などトラブルが起こると行政が困る。生ワクチンは4週間の間隔をあけて次の予防接種をすることになっている。外国へ行くなど急いで接種する必要があるときには同時に接種する。MMR ワクチンができれば問題ないが。

Q3：麻疹ワクチン接種率について、分母にはどういう数字をいれているのか。

A3：資料の5ページに4つの算定式が示してあるが、一般的に市町村で出しているのは、一番上の「厚生労働省算出式」。予防接種台帳があるところは、2番目の「予防接種研究班算出式」で出せる。行政が出している算出式では、1歳か2歳かいつ接種したのかわからない。ある年齢を決めて出すほうがいいのでは。希望は1歳6か月児健診で把握すると、住民への活動(勸奨：1歳過ぎたら接種を)の成果がわかる(1歳半健診時の接種率算出)。市町村によりどの算出式を使ったかがわかるように集めるとよい。

(三重県では、庵原先生が1歳半で出せるよう頼んだ)

Q4：幼児の健診を利用して出した接種率で、平成13年より平成14年の方が接種率が増加、麻疹が流行しキャンペーンもしている。

A4：三重県でも低い接種率のところが上がってきている。キャンペーンの効果ではないか。キャンペーンなどで熱せられて上がったと思われ、続かないのではないか。

Q5：1歳半健診での勸奨をしているところは？

A5：三重県内で、1歳半健診で接種率をとっているのは2～3市町村。母子手帳に転記するのは大変。接種してない場合は紙?を渡すと接種への行動につながる。

長久手町では、公立陶生病院の山口先生の指導協力もあり、予防接種の説明で「1歳になったら麻疹ワクチンを接種しましょう」といっている。保健師も意識が高まり、累積接種率では、平成13年は立ち上がりがよくなった。2歳時点の接種率は95%くらい。個人的に手紙で勸奨するのも効果がある。

A5：名古屋市中川保健所では、1歳半健診受診者1回80～90人、Ns3人母子手帳をチェック、3種混合の接種日を記入し、麻疹ワクチン未接種者へは強く勸奨、リーフレットをはさむだけより手ごたえがある。

その他、講師から

- ・ ワクチンで予防できる病気は防げる。お母さんたちへの介入について、健診の場一言いうのは有意義。
- ・ 医師が意外と知らない。地域の予防接種委員会から地区医師会へ指導をしていただきたい。

シン
ポ
ジ
ウ
ム

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート評価

出席者 64人 アンケート回収数：52枚（回収率81.3%）

研修会名	予防接種研修会						
研修者の職種	医療機関：医師1人 保健機関：保健師24人、看護師15人、医師1人、薬剤師3人、 事務職5人、その他職種1人、不明2人						
研修者の年齢分布	20歳代：12人、30歳代：18人、40歳代：7人、50歳代：8人 60歳代：1人、不明6人 計51人						
研修者の性別	男性：9人 女性：42人 不明1人						
アンケート質問項目		1	2	3	4	5	わるい 不明
	．本日の研修全体のプログラムはいかがでしたか？	23 (44.2%)	21 (40.4)	6 (11.5)	0	0	2(3.8)
	．講演「麻疹ウイルスと麻疹流行予防対策」は参考になりましたか？	32 (61.5)	15 (28.8)	5 (9.6)	0	0	0
	．麻疹や麻疹ワクチンについて理解できましたか？ 1よく理解した 2理解した 3ほぼ理解した 4あまり理解できなかった 5理解できなかった	18 (34.6) (3.8)	26 (50.0)	5 (9.6)	1(1.9)	0	2
	．麻疹ワクチン接種率向上の必要性が理解できましたか？ 1よく理解した 2理解した 3ほぼ理解した 4あまり理解できなかった 5理解できなかった	29 (55.8)	19 (36.5)	4 (7.7)	0	0	0
	．シンポジウム全体のプログラムはいかがでしたか。	13(25.0)	26(50.0)	11(21.2)	1(1.9)	0	1(1.9)
	．シンポジウム「地域における麻疹感染予防対策」は参考になりましたか。 1非常に参考になった 2参考になった 3まあまあ参考になった 4あまり参考にならなかった 5参考にならなかった	13(25.0)	23(44.2)	16(30.8)	0	0	0
	．講演・シンポジウムの内容は、今後の各機関の予防接種事業に参考になりましたか。 1非常に参考になった 2参考になった 3まあまあ参考になった 4あまり参考にならなかった 5参考にならなかった	20(38.5)	24(46.2)	6(11.5)	0	0	0
	．各機関では麻疹ワクチン接種率向上への取り組みをしていますか。 1している 2してない	27(51.9) 11(21.2)	0	0	0	0	14(26.9)
	．当センター予防接種センター事業に関するご要望・ご意見はありますか。 1ある 2ない	9(17.3) 9(17.3)	0	0	0	0	34(65.4)
．今回の研修会は平日の開催でしたが、いかがでしたか。 1平日でよい 2土曜日がよい 3どちらでもよい	43(82.7)	1(1.9)	1(1.9)	0	4(7.7)	3(5.8)	

* 麻疹ワクチン接種率向上への取組み

- ・ 1歳6か月児で未接種者に勧奨はがきを出す。
- ・ 接種対象者へパンフレットの配布
- ・ 集団接種であるため、未接種者には必ず次回の日程を案内し未受診の理由を聞いている。信条の理由等でない限り接種するまで案内を続ける（対象の少ない町だからできることであるが）
- ・ 未接種者に電話で勧奨する。
- ・ 10か月児健診時にパンフレットを配布し呼びかける。
- ・ 広報、ホームページ等で周知
- ・ 3歳で未接種児へ接種勧奨の通知をしている。
- ・ 1歳6か月児健診時に接種確認
- ・ 1歳誕生日の前月に個人通知
- ・ ポスター作成・掲示、保育園・幼稚園・医療機関へ配布
- ・ 乳幼児健診時に同時接種
- ・ 広報、年間スケジュール、接種券に1歳3か月までに接種するように案内
- ・ 1歳1か月時に勧奨通知
- ・ 各健診で接種確認し未接種者に勧奨
- ・ 未接種者へ、年齢制限がくるまで接種券を送りつづけている。
- ・ 3歳児健診時母子手帳で接種確認、未接種理由の確認と予防接種スケジュールについて相談にのる。

* その他感想

- ・ 豊田市では卵アレルギーのお子さんは皮内テストをしながら麻疹の予防接種をしているが、その必要性について検討中だったので庵原先生の講演はとても参考になった。
- ・ 麻疹ウイルスの感染力の強さ、ワクチン接種の重要性をあらためて認識することができた。
- ・ 今回の研修は市町村の出席が意外と少ないのが気になった。予防接種従事者研修会が9月末にあり間隔が短いためか？
- ・ 麻疹予防接種の重要性をあらためて痛感した。
- ・ 間違った禁忌者や接種間隔等、行政側の知識不足を感じます。
- ・ 私の職場では、現在1.6月児健診で個人指導しているが、来年度は個人指導ができなくなる。健診受診者にリーフレットを渡すだけでなく個人指導が続けられるよう頑張りたい。
- ・ 麻疹と卵白アレルギーとの関連について変更があると知り、次年度事業の参考になった。ポリオの個別化について、検討中であるので参考になった。
- ・ 新城市は集団接種のため、どの予防接種においても対象児に個人通知しており、接種率も低いほうではないが、接種されない方々もいるのでこの学びを事業に生かしたい。
- ・ 瀬戸市では、今年から年中を対象に接種状況調査、また、2年前から就学時検診を利用し、最終チェック、未接種者への勧奨に努めている。また、保健師とも協力し健診未受診者にも声かけをしている。少子化の影響もあるのか徐々に接種率上昇。ただ、接種率の出し方がまちまちなので問題もあるかと思う。
- ・ 講演時間がもう少し長いほうがいい。話しが早すぎてしっかり聞きたくても聞けない部分があった。

予防接種相談内容

(相談分類相談者別)

平成15年4月～平成16年3月

中分類	小分類	相談者続柄			計	割合
		本人・家族	専門家等	その他・不明		
接種時期 ・方法	基礎疾患と予防接種	202	7	14	223	69.9%
	既往症と予防接種	12	5	0	17	
	疾患罹患と予防接種	23	4	2	29	
	妊娠と予防接種	1	1	1	3	
	接種スケジュール	93	22	7	122	
	接種期間超過	21	10	1	32	
	実施医療機関	29	0	2	31	
	その他	66	9	32	107	
	中計	447	58	59	564	
副反応	ツ反・BCG	0	2	0	2	2.4%
	ポリオ	1	0	0	1	
	三種混合(DPT)	5	1	0	6	
	風疹	3	0	1	4	
	麻疹	2	1	0	3	
	ムンプス	1	0	0	1	
	インフルエンザ	1	0	1	2	
	中計	13	4	2	19	
効果	ツ反・BCG	2	1	0	3	2.9%
	ポリオ	8	4	0	12	
	三種混合(DPT)	1	0	0	1	
	風疹	1	0	0	1	
	麻疹	1	0	1	2	
	ムンプス	1	0	0	1	
	水痘	0	1	0	1	
	インフルエンザ	0	1	1	2	
中計	14	7	2	23		
海外渡航	必要な予防接種・接種計画	85	5	19	109	15.6%
	海外の予防接種制度	3	2	1	6	
	予防接種実施機関	1	1	1	3	
	その他	4	2	2	8	
	中計	93	10	23	126	
その他	その他	52	13	10	75	9.3%
	中計	52	13	10	75	
計		619	92	96	807	100.0%
		76.7%	11.4%	11.9%	100.0%	

予防接種センター調査検討委員会

実施日時	平成16年3月17日(水)午後3時から 実施予定
出席者	愛知県健康福祉部健康対策課主幹 吉田宏、愛知県厚生農業協同組合連合会昭和病院副院長 尾崎隆男、愛知県医師会理事 谷口正明、名鉄病院予防接種センター部長 宮津光伸、名古屋市健康福祉局健康増進課長 梅村三郎(代理 結核感染症係長佐藤安寛) あいち小児保健医療総合センター長 長嶋正實 計6名 (欠席:名古屋大学医学部教授 森島恒雄、藤田保健衛生大学医学部教授 浅野喜造)
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 あいち小児保健医療総合センター予防接種センター平成15年度事業実績について 2 調査研究について <ol style="list-style-type: none"> (1) 「予防接種アクシデントに関する調査について」 子どもの予防接種に関する接種過誤や事故の実態把握のため行政機関への報告または相談内容や、地域における報告・相談体制等の状況を把握するため。 (2) 「麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査について」平成16年2月実施。 3 予防接種センター事業について意見交換
討議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 議題1, 2について、事務局山崎室長から報告。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 予防接種アクシデントに関する行政機関向け調査 市町村84、中核市3、県保健所・支所22(回収率100%) (2) 麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査 平成16年3月16日現在 回収数851件(医師会677、病院小児科174) 2 質疑応答、意見交換 <ol style="list-style-type: none"> (1) 議題1「平成15年度事業実績について」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予防接種の実施について、公費と任意接種の割合は? 契約市町村のみ ・ 名古屋市は? 名古屋市医師会と契約、名鉄病院と東市民病院で接種困難者の対応をしている。 ・ 昭和病院は? 近隣市町との契約なし。接種要注意者は任意接種の扱いになる。 (2) 議題2「調査研究について」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予防接種の事故に関する報告について、名古屋市は? 集団接種の場合は報告のシステムがあるが、個別接種ではない。副反応の場合は当然あるが、事故の場合には報告のシステムがない。 ・ 予防接種に関する事故の報告について、この委員会から意見を出すことはできないか? この調査は健康対策課に了解を得て実施しているが、次のステップにはつながっていない。

予防接種センター調査検討委員会研究部会

〔第1回〕

実施日時	平成15年5月21日(水)午後7時から9時まで
出席者	医療法人ネオキッズニコニコこどもクリニック院長荻野高敏、医療法人佐々木こどもクリニック院長佐々木邦明、名古屋掖済会病院小児科部長西川和夫、医療法人花田こどもクリニック院長花田直樹、愛知医科大学小児科講師浜口典子、川井小児科クリニック川井進、名鉄病院予防接種センター部長宮津光伸 あいち小児保健医療総合センター保健室長山崎嘉久 計8名(欠席:かわきた小児科院長川北章)
議題	1. 平成14年度調査研究報告 2. 調査検討委員会研究部会の平成15年度研究課題について
討議内容	1. 平成14年度調査研究報告「地域における麻疹ワクチン接種実態調査」 ・調査実施機関に結果を還元するとともに、事後措置の提示をする。 ・第二期調査として、今回の効果測定を行う。・全市町村に情報提供する。 2. 平成15年度研究課題について 予防接種に関する「ヒヤリ・ハッと事例」について調査 ・初期調査として、夏までに、県内全市町村に対してアンケート実施 ・次の段階で、サーベイランス的に前向きな調査をするといいい。 健康対策課に意見聞く(健康対策課では副反応・健康被害について対応) 麻疹及び麻疹ワクチンについて、アンケートをとおして意識レベルをあげる、質の向上のための調査を実施する。 対象:県内予防接種実施医療機関の医師.市町村に予防接種契約医療機関をきく。

〔第2回〕

実施日時	平成16年1月21日(水)午後7時から9時30分まで
出席者	医療法人ネオキッズニコニコこどもクリニック院長荻野高敏、医療法人佐々木こどもクリニック院長佐々木邦明、名古屋掖済会病院小児科部長西川和夫、医療法人花田こどもクリニック院長花田直樹、名鉄病院予防接種センター部長宮津光伸、あいち小児保健医療総合センター保健室長山崎嘉久 計6名 (欠席:医療法人かわきた小児科院長川北章、愛知医科大学小児科講師浜口典子、川井小児科クリニック川井進)
議題	1. 予防接種アクシデントに関する行政機関向け調査について 2. 麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査について
討議内容	1. 予防接種アクシデントに関する行政機関向け調査について ・予防接種の過誤や不適切な実施などに関して、医療機関等からの問合せや相談・報告が、(正確ではないが)結構あることがわかった。その内容について、具体的に求めてはどうか(1年間記録してもらう) ・副反応は予防接種実施市町村への報告義務があるが、事故は報告義務はない。 ・今回の調査結果は、コメントをつけて各市町村及び保健所へ返す。 ・システムを考えていくデータをつくるため、引き続き調査として、 「予防接種の過誤や不適切な実施の具体的な内容について、各市町村に、様式を示し、ある期間記録してもらうことを検討する」 県健康対策課に相談する(来年度事業)。 2. 麻疹ワクチン接種の質向上に関する調査について 調査項目について、「回収率を上げる、解説でメッセージを多く加える、回答のFAX問題」から、案を考えたが、当初の調査目的・主旨が変わってきてしまう等、検討した結果、当初案を基本にし本日の意見を入れての内容を修正する。